

教団新報

定 価 1部150円(本体137円+共214円)
予約購読料 1年分 千共 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140—9—145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL <http://uccj.org>
発行人 秋 山 徹
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし



日本聖書神学校
(東京教区)

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼料桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

《ルカによる福音書 2章8～15節》

クリスマス メッセージ

良い知らせ

ルカによる福音書 2章1～20節



神保 望

不安と恐れの中の出来事

主イエス・キリストの誕生の知らせは、全ての人々にとって大きな喜びの訪れです。キリスト降誕が伝えられると、マリヤとヨセフはベツレヘムまで移動する必要が生じましたが、身をもっていたマリヤにとっては過酷な旅となりました。今日のように発達した交通網があつた訳ではありません。主イエス・キリストは、このように家畜小屋の隅に置かれた動物用の餌箱の中にお生まれ

希望と喜びの出来事

こうした不安と恐れに満ちた長い夜は、救い主誕生の知らせが実現したことで希望と喜びに包まれました。お生まれになられた乳飲み子イエスは、家畜小屋のマリアやヨセフだけではなく、危険な荒野で夜通し過ご

良い知らせとしての福音

「知らせ」と言う時は、私は宣教師として派遣されたフィリピンでの生活を思い出します。当時、私は北部ルソンの高山市バギオからバスで更に4時間半ほど山道を登った山岳地帯の農村教会を拠点に福音宣教の働きに従事していました。そこは携帯電話の電波が届かず、インターネットの設備も整わない地域であり、陸の孤島と表現したくなるような環境でした。ですから日常生活で特に不便を感じたのは、日本から届く郵便物を、勤を頼りに受け取りに行くことでした。日本から送られた郵便物は山を

福音を宣べ伝える

救い主誕生の知らせによってもたらされる希望と喜びは、キリスト降誕の場面に居合わせた者にとのみ与えられたものではありません。主なる神は、御子を通じて世に表され

この「あなたがたのために救い主がお生まれになった」という御言葉は、今も不安や恐れの中にある全ての人々を勇気づけ、生きる希望を回復させる力に満ちています。何故なら、お生まれになられた乳飲み子は、その後成長されると神の御国の到来を宣言し、弟子たちを連れてガリラヤで宣教され、良い知らせとしての福音を宣べ伝えられたからです。しかしその結果、敵対者たちによって十字架刑に処せられ殺されたのです。この出来事は、主なる神ご自身が人類の罪をお引き受けくださったというものであり、審か

お知らせ
「教団新報」今号を4917・18合併号とし、次号は1月25日に発行します。
総幹事 秋山 徹

りだったので、神を崇め賛美しながら家路につきました。
私たちも、良い知らせ(福音)による希望と喜びを携えて生活の場へと帰り、福音を宣べ伝える者として祝され用いられるのです。
(日本聖書神学校校長)

天皇代替わり、教区の取り組み

◆北海道教区◆

国民主権に違反しない儀式を

北海道教区は、天皇代替わりにもなう諸儀式は日本国憲法にはふさわしくないと考えられるものが多くあったため、その原則に違反するものであつてはならないとの観点から、問題意識をもつて取り組んできた。裕仁天皇から明仁天皇に皇位

継承が行われた時の諸儀式は日本国憲法にはふさわしくないと考えられるものが多くあったため、その原則に違反するものであつてはならないとの観点から、問題意識をもつて取り組んできた。裕仁天皇から明仁天皇に皇位

「第36回北海道宗教者懇談会」が開催された。「天皇の代替わり儀礼と信教の自由」と題して、島園進氏が講演。教団北海道区、日本キリスト教会北海道中会、真宗大谷派浄土真宗本願寺派が主催する集会である。参加者は69名。

2019年4月に行われた第79回北海道定期総会では、議案「天皇代替わりに際し行われよう

「第36回北海道宗教者懇談会」が開催された。「天皇の代替わり儀礼と信教の自由」と題して、島園進氏が講演。教団北海道区、日本キリスト教会北海道中会、真宗大谷派浄土真宗本願寺派が主催する集会である。参加者は69名。

「第36回北海道宗教者懇談会」が開催された。「天皇の代替わり儀礼と信教の自由」と題して、島園進氏が講演。教団北海道区、日本キリスト教会北海道中会、真宗大谷派浄土真宗本願寺派が主催する集会である。参加者は69名。

◆兵庫教区◆

毎月1回、連続集会を実施

兵庫教区（以下、教区）は、2003年度教区総会で「天皇制問題は宣教の課題である」と再確認し、靖国・天皇制問題情報センターを支援することを決議した。

また、2016年8月8日に公表された「生前退位の意向を示した天皇メッセージ」を受け、2017年度教区総会で「大嘗祭に反対する件」を決議した。

2019年度は常置委員会、教区天皇制問題特設委員会主催で連続集会を実施した。

4月30日（退位の日）は、但馬地区・豊岡教会で、「天皇退位の日・ホントの意味で、『平成』

とさよならしよう」をテーマに集会を行った。

5月1日（即位の日）は、教区クリスチャン・センターで、横田耕一氏（憲法学者）を講師に招き「天皇代替わりと私たち『天皇教』の存続」をテーマに講演会を行った。

「元号問題と天皇代替わり儀式」を主題に

東京教区社会部は「教団社会活動基本方針」に基づきながら、教区社会部主催による講演会を開催している。

今年度は活動方針のうち「憲法を守り、民主主義を擁護する」、「信教の自由を守る」にあたる事柄として、大嘗祭が行われることもあるので、元号

問題、そして大嘗祭を含めて「元号問題と天皇代替わり儀式」を主題とした。

講演会は11月4日、富士見町教会を会場にして「元号問題と天皇代替わり儀式」を主題とした。

講演の要点は、元号に士見町教会を会場にして「元号問題と天皇代替わり儀式」を主題とした。

講演の要点は、元号に士見町教会を会場にして「元号問題と天皇代替わり儀式」を主題とした。

◆韓日5教団の宣教師に関する実務者会議◆

4年にわたる協議を終了

11月18・19日、ソウルで、第7回韓日5教団の宣教師に関する実務者会議が開催された。

2016年より始まったこの会議は、大韓イエス教長老会（PCK）、韓国基督教長老会（PROK）、基督教大韓監理会（KMC）から日本に派遣される宣教師の人事に関する諸課題について、在日大韓基督教会（KCCJ）と共に協議をするものである。

これまでの6回の会議において、韓国3教団から日本に派遣されている宣教師の働きの状況や、教団における宣教師受け入れ手続きおよび現状の報告、日本における宣教師の活動報告、日本宣教師を目指す宣教師候補者のインターンシップ制度構築の検討等について協議してきたが、この度は、あらかじめ本会議をもつてこの会議の開催を終了することとしていた。

今回は、韓国3教団より世界宣教師門や宣教師人事の担当者が出席し、KCCJからは趙永哲総会長ほか4名、教団からは雲然俊美書記と加藤誠世界宣教師担当幹事が出席した。

会議においては、各教団における宣教師人事とその働きに関する取り組みの現状報告がなされ、その後、金柄鎬KCCJ総幹事より、日本宣教師を志す宣教師養成のための「日本宣教師アカデミー」開設構想案が出され、協議の後、今後、韓国から日本に派遣される宣教師の事前学習の場の設置に向けて、各教団の担当幹事を中心に検討を進めることとした。

以上をもつて4年にわたる協議を終えた。



今回の協議は、各教団における宣教師人事とその働きに関する取り組みの現状報告がなされ、その後、金柄鎬KCCJ総幹事より、日本宣教師を志す宣教師養成のための「日本宣教師アカデミー」開設構想案が出され、協議の後、今後、韓国から日本に派遣される宣教師の事前学習の場の設置に向けて、各教団の担当幹事を中心に検討を進めることとした。

以上をもつて4年にわたる協議を終えた。

問題が丁寧に取り扱われた。次に天皇代替わり儀式については、①日本国憲法では、天皇代替わり儀式を国家的な行事として行う根拠の失効、②三種の神器承継を国事行為として行うことは憲法の国民主権と両立しない、③即位後朝見の儀、即位礼正殿の儀が国事行為の儀式として行われることの違憲性、④大嘗祭は明白

な宗教儀式であり、戦前は天皇が神となる儀式と理解されていたこと、政府は大嘗祭が宗教上の儀式であり、皇室の私的行為であることを認めつつ、公的性格があるとして宮廷費から支出するなど明白な政教分離違反であることなど、憲法・法律上の根拠についての問題が指摘された。

（大友英樹報）



富士見町教会を会場に

◆伝道資金を用いた取り組み(四国教区)◆

青年一人一人の信仰の歩みを支えるために

四国教区では、昨年度伝道資金として、伝道交付金360万円、教区伝道方策交付金81万9400円、合計441万9400円を受領した。このうち、教区伝道

方策交付金は、特に継続的な取り組みが必要と考えている主として5つの働きのために用いた。それは、青年育成費、在日大韓基督教教会新居浜グレース教会との合同シン

ポジウム開催費、教区広報費、差別問題学習会費、そして、ハラスメント対策費である。

今回は、特に青年育成費について報告する。四国では、進学や就職を機に四国を離れる青年が少なくない。教会でも、同様の傾向が続いている。しかし、少数ではあるが、四国教区の教会で信仰生活を送る青年が与えられている。そのような一人一人の信仰の歩みを支えるために、教区の重要な使命であると受け止めている。

現在、教区には青年部は存在しないが、青年に対する取り組みを継続する

◆西南支区・南支区合同教師会◆

伝道拡大のための教会合併

11月18日、東京教区西南支区・南支区合同教師会が渋谷教会で行われ、36名が出席した。「いきいきと伝道する教会」を

屋教会と駒澤教会の合併について発題した。北川牧師によると、駒澤教会では高齢化による礼拝出席の減少に伴い将来的に運営が困難になることが予想された。検討の結果、歴史が途絶えず信徒が離散しない吸収合併という道を選択。西南

支区と協議し、至近にある三軒茶屋教会に合併を申し入れることになった。

伊藤牧師によれば三軒茶屋教会役員会では「これからは教会合同や合併が必要になるかもしれない。今から心構えを」との共通理解が2012年頃よりあったとのこと。合併の申し出を受け、もと

三軒茶屋が駒澤から分離したという経緯から「他人事ではない」と受け止める一方、懸念や反対もあった。そのため

の交わりを与えられることは、大きな意味を持つ。そのような働き的重要性を考え、教区伝道方策交付金を用いている。全教団的な伝道支援の祈りに、四国教区の青年活動が支えられていることは、本当に感謝である。

(黒田若雄報)



5月 第37回四国教区青年集会 徳島分区分鴨島兄弟教会

社会事業奨励日メッセージ

この夏は、2年ぶりに訪れたアウグスブルク(ドイツ)で、前回果たせなかったフッガーライ訪問を叶えることができた。

フッガーライは1521年にアウグスブルクの豪商やコブ・フッガーが資金を提供し生活に困っている貧しい市民のために建設された。当時52軒、第二次世界大戦当時の被災後なお再建され、67軒の棟に現在140のアパート、150名の入居者が生活している。世界最古の社会住宅として知られ、当時も今も年間

わが国の国法に定められている社会福祉の根拠(憲法第25条)あるいは「福祉六法」(老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法)に基づき、現在実に多くの社会福祉事業団体が活動しているが、これらを支える社会の仕組みや行政の基盤の脆弱さゆえ、多くの問題をも抱えている。私もはこ

うした世の中にあつて、これらの団体の働きを覚えつつも、そこにキリストへの信仰にある祈りと願いがますます重要であることを思う。

今年も12月第1主日の「キリスト教社会事業を覚えて祈る」

2019年12月1日 第41総会期日本基督教団社会委員会委員長 森下 耕

事務局報

嶺 尚氏(隠退教師)



19年11月19日逝去、84歳。東京都生まれ。62年東京神学大学大学院卒業。同年より茂呂、大泉ベテル教会を牧会し、弘前学院に務め、関東教区巡回教師を経て05年隠退。遺族は妻・嶺澄子さん。

山神 康氏(無任所教師) 19年11月19日逝去、89歳。山梨県生まれ。54年日本基督教神学専門学校卒業。同年より醍醐、富士見丘、所沢、所沢みくに教会を牧会。遺族は息・山神雄一さん。

正教師登録 中村正俊 (2019・11・23受按) 小手川到、佐野 治 (2019・11・24受按) 木村光寿、澤田石秀晴、塚本 望、長橋和彦、綿引久美子 (2019・11・30受按) 教師異動 尼崎 辞(代)稲生勝也 (就(代)近藤 誠) 野村 辞(兼主)佐藤浩之 (就(兼主)尾崎武蔵) 上地 辞(代)具志堅篤 (就(主)知花スガ子) 埼玉中国語 辞(主)林 美音 東洋英和女学院 辞(教)吾妻國年

日本伝道の推進を祈る日

アドヴェントの主の名を賛美します。各教会・伝道所には、「日本伝道の推進を祈る日」(毎月第3主日)の再度のお願いが届いている頃と思います。

『信徒の友1月号』では「東北教区」と「関東教区」の伝道の様子が掲載されています。『2月号』では「東京教区・東支区」と「東京教区・西南支区」が掲載されます。具体的に祈る教会も紹介されます。(是非、信徒の友を手にとってお読みください。いつでも購読を始められます。)

クリスマスは「伝道の季節」です。「日本伝道の推進」を共に祈りましょう。

日本基督教団総幹事 秋山 徹

「兵庫県南部大地震記念の日」追悼礼拝

◎日時 2020年1月17日(金)午後6時

◎場所 日本基督教団 神戸教会

*会場に駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。

◎「私が絶望しても私を見捨てない者が在る」

五百井正浩住職(真宗大谷派玉龍寺)

◎主催・問合せ 日本基督教団兵庫教区

(Tel 078-85614127)

上総大原

就(代)中村征一郎

伝道所廃止

鏡石

教会通信先設定

上総大原

〒299-4503 いす

み市岬町和泉3932

11 松谷好明方

お詫び・訂正

教団新報4916号

1面「帝国主義の影響と

宣教の課題についての東

アジア部会」5段5行目

ます。

重ねてお詫び申し上げます。

伝 道 報 告

伝道の
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

聖書が語る愛の実践の場

中部教区・愛知老人コミュニティーセンター宗教主事 小田部正一

で来る事ができたことを心より感謝しています。

「まきば」は23年前に、隠退牧師の「終の棲家」としての思いを持ちつつ、介護付き有料老人ホームとしての歩みを始めました。有料老人ホームとしての評価はもちろん、教団のセンターが運営するホームとしても、入居されたお一人一人に寄り添い「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙12章15節・新共同訳）というキリストの教えのもとに優しさ喜びを伝え、育んでいく施設として介護サービスを提供しており、良い評価を得ています。

「まきば」は、これまで教団以外の隠退牧師を含め、5名の先生方を神様のみ許へと送り出した。そして、現在は6名の隠退牧師並びに、そのお連れ合いが生活の場として入居しています。また、入居している約6割の方々がクリスチャンと多く、第1金曜日に行われる「礼拝・聖餐式」、その他の金曜日に行われる「聖書の集い」、第3週の主日を中心に行われる「ルツ

の会」（礼拝）、「聖書写教の集い」等、毎月定例で行われるキリスト教プログラムに参加してもらい、信仰生活を共に送っています。特に聖餐式は、介護食のパンとぶどうジュースを協力病院の医師監修のもと、看取りの時まで可能なものを準備しており、本人が希望すれば最期の時まで聖餐に与ることが可能となっています。

さらに、年間行事としては、受難日や、イースター、召天者記念、ボランティア感謝、クリスマス等、様々な時に礼拝として入居者だけではなく、ご家族やボランティアの方々と共に守っています。

さらに、16名の常勤職員のうち半数である8名がクリスチャンであり、聖書が語る愛の実践の場としています。

愛知県日進市にある「愛知牧場」の周りに、南山教会を始め、愛知国際病院、アジア保健研修所（AHI）等と共に、隣接する形でシルバーホーム「まきば」（以下「まきば」と略す）が建てられています。これまで中部教区の諸教会・伝道所を中心として教団関係の皆様をはじめ、多くの方々の祈りによって歩ん

設としての働きだけではなく、これまでも近隣の教会や地域において、超高齢社会において身近な問題である「介護」に関する講演を実施したり、介護に関する問い合わせに対応したり、入居者だけではなく、地域にそして教会に寄り添う働きも担って来ました。

いよいよ2020年の東京オリンピック・パラリンピックが開催され、建築費が落ち着いた頃を目処に、設立当初から描いていた「隠退牧師館（仮称）」の準備に向け、調査を予定しています。すべての業に時があるように、これまで備えられて来たものを計画へ移す時と考えています。今後とも皆様のお祈りに覚えていただき、幻の実現に向けてお支えいただければ幸いです。私たちの思いではなく、神様のみ業が顕れますようにと願いつつ。

◆ローマ教皇訪日◆

すべてのいのちを守るため



東京ドームで「教皇ミサ」

ローマ・カトリック教会フランススコ教皇が、11月24日に広島平和記念公園で「平和のための集い」を、25日に東京ドームで「教皇ミサ」を行った。これらの集いに、プロテスタント教会や諸宗教の代表者も招かれた。

広島集会では石橋秀雄教団議長も壇上で教皇からのあいさつを受け握手した。教皇はメッセージで、「被爆者は、人種や宗教、あらゆる区別を超えて、共に核兵器の脅威と非道さを世界に訴えることができる」と語る

と共に、平和を口にしなから核を武器として備えることを容認する者の非倫理性・犯罪性を指摘した。米国の核の傘のもとに安住する日本に覚醒を促すものだった。

東京のミサには、教団関係者も多く招かれた。5万人の大会衆の歓呼の中、専用車に乗った教皇は、幼い子どもを祝福しつつ場内を一巡したのち登壇。説教では、創世記の初めと山上の説教から、神が造られた世界と命をそのままに感謝と喜びをもって受け入れな

ければならないこと、自分の命のことだけでなく他者と世界に満ちるすべての命を受け入れて共に生きることに招かれていることを告げた。「おお、主よ、すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくため、あなたの力と光でわたしたちをとり立ててください」との祈りに導かれるものだった。

日本の、特に若者の間に広がる無視され無価値にされている人々の痛みや孤独を知り、その心に「思い煩うな。神の国と神の義とを求めよ」とのみ言葉の光を届けたいという思いが感じられた。

最後に、今日の社会における教会の働きとして、傷ついた人々を受け入れる「野戦病院」となれ、と訴えたのは衝撃だった。カトリック、プロテスタントを含めた日本の教会、上からの福音に心を閉ざし冷え込んでいる日本の社会にとつて、教皇訪日が、み言葉が語られ、聞かれ、生かされる機会となったことを喜びたい。

(秋山 徹報)

ひととき

神子澤悦子さん

わたしたちの国籍は天にある



青森市松丘保養園（国立ハンセン病療養施設）内にある「松丘聖生会」会長。

国立ハンセン病療養施設は全国に13か所ある。それぞれの施設にキリスト教の教会が存在する。施設利用者の減少に伴い、役割を終え、閉じていく教会もある。

そのような中、今もキリストの証しの灯を守り続けている教会がある。青森市の松丘保養園内に存する「単立・キリスト教松丘聖生会」が、その一つである。聖生会会長の神子澤悦子姉は、ご自身の生涯と重ね、聖生会の歩みを次のように振り返る。

1953年頃、園内にあった教会は聖公会一つだけで、その礼拝にはカトリック、プロテスタントの信者が混在していた。1954年にカトリックの教会を離れ、独立した後、日本基督教団弘前教会の藤田恒男牧師が葬儀や洗礼式などの牧会責任を負い、青森市内の宣教師や牧師、兄弟が日曜午後の礼拝に奉仕し、支えてくれた。藤田牧師が高齢になってから、青森市内の教団青森松原教会の中山道牧師に聖生会の奉仕をお願いした。

人生を振り返り、今想うところは「わたしたちの国籍は天にある」ということ。新しい命を与えられ、涙が溢れた日を忘れられない。80数名の聖生会であったが、祈りつつ兄弟姉妹を天へ送った日を想いながら、「測り縄は良き地に落ちた」の詩編の御言葉に感謝して、たくさんの方、諸兄弟に支えられた。

最後に残る者は二人、三人になるかもしれない。しかし、最後まで礼拝を守り続け、讃美と祈りをささげ、福音の証しに励むことを書き残した亡き夫・神子澤新八郎（2019年召天）に感謝しながら生きたい。

にある連帯の絆が深まるとともに、日本の若いキリスト者にも大きな刺激を与える良い機会になる。すでにアジア学院ではこのようなユース・ボランティアを受け入れ、青年グループに刺激を与え、また本人にとってもよき学びの時となる交換プログラムを実施している。

9月半ばより台湾基督教長老教会（PCT）から派遣された胡宜芳（フー・イーファン・通称ソウソウ）さんを迎えた。教団では「受け入れ信徒宣教師」に準じるが、彼女は台湾の大学の日本語学科を卒業したばかりの若い女性。これまで Love Taiwan Mission などの青年交流プログラムで日本の教会青年とも交わりが深く、日本の教会の若い人との働きや交わりに加わりたいと願って、ワーキング・ホリデーを使って日本に来た。教団では主としてSCFの

スタッフ会議やキャンプに加わり、来年2月の「台湾スタディー・ツアー」には中核になれると期待している。教団青年プラットフォームを活性化するために、

教団初の
ユース・ボランティア

働きにも加わり、1年間を過ごす予定。

教団としてこのような海外のユース・ボランティアを迎えるのは初めてである。これを通して教団とPCTとのキリスト

ソウソウさんは、「日本のどこへも行きたい、何でもしたい」と、とても前向き。各教区や地区の交わりにも加えていただければ幸いである。

(教団総幹事 秋山 徹)



「まきば」外観、ボランティア感謝礼拝の筆者（左）



「聖書の集い」クリスマス（左）



「まきば」外観、ボランティア感謝礼拝の筆者（右）